

特集「オープンイノベーションを加速するコラボレーション技術とネットワークサービス」の編集にあたって

大平 雅雄^{1,a)}

グローバルな競争の激化やユーザーニーズの多様化などにより、各企業が独自で革新的な商品やサービスを企画開発することは現実的に困難になりつつある。そのため、業界や分野の垣根を超えてそれぞれの持つ技術やノウハウを組み合わせて新たな商品・サービスを生み出すオープンイノベーションの必要性が高まっている。実際、自動車業界と通信業界が提携するなど、我が国においてもオープンイノベーションの流れが加速しつつある。ただし、異業種・異分野の連携は必ずしも容易なことではなく、ヘテロジニアスな環境の中でヒト・モノ・コトを有機的に結び付け組織化するためにも、コラボレーション技術とネットワークサービス技術の重要性はこれまで以上に高まるものと予想される。

このような状況認識に基づき、情報処理学会論文誌において「オープンイノベーションを加速するコラボレーション技術とネットワークサービス」特集号を企画した。本特集において時宜を得て迅速に関連する研究論文を一括掲載することにより、社会に成果を公開し、グループウェアとネットワークサービスに関する研究のいっそうの発展に寄与することを目指した。

本特集号には、13件の論文が投稿された。2019年4月に第1回編集委員会を開催し、投稿論文が特集号のテーマに合致しているか審議した。同年6月に第2回編集委員会、9月に第3回編集委員会を開催して査読報告を審議した。最終的に5件が採録、8件が不採録と判定された。採録率は38%となった。すべて和文論文である。

採録論文の内訳は、グループインタラクション支援とグループウェア、社会・人間系の情報システム、ユーザインタフェースとインタラクティブシステムなど、コラボレーション技術やネットワークサービスの応用に関する幅広い分野となり、採録件数は昨年度の特集号よりも少なくなったが特集号としての役割を果たしたと考えている。

今回残念ながら不採録になった論文の多くはテーマやアイデアとして興味深いものであった。研究成果の社会的意義という視点でとらえた場合、非常に良いアイデアで

あっても十分な社会的実践をともなったものでなければ、評価が不十分として採録されないことが多くある。本特集号の編集委員会でもどの程度の規模で評価を行えば論文としての妥当性を主張できるのか、どのような評価手法を用いることが適切なのか等について議論があった。著者の皆様には、ぜひとも研究を発展継続し、再投稿されることを期待する。

最後に本特集号の編集にあたり、優れた論文を投稿していただいたすべての著者の貢献にお礼を申し上げたい。また、予定どおり発刊できたのは、多忙の中、短期間の査読に協力いただいた査読者の方々、伊藤淳子氏、福島拓氏の両幹事をはじめとする編集委員、学会関係者の多大なご尽力のおかげであり、ここに心から感謝申し上げたい。

「オープンイノベーションを加速するコラボレーション技術とネットワークサービス」特集号編集委員会

- 編集委員長
大平雅雄 (和歌山大学)
- 幹事
伊藤淳子 (和歌山大学)
福島 拓 (大阪工業大学)
- 編集委員
市川裕介 (NTT), 市野順子 (東京都大), 市村 哲 (大妻女子大), 井上亮文 (東京工科大), 井上智雄 (筑波大), 江木啓訓 (電気通信大), 岡嶋成司 (富士通研究所), 岡田謙一 (慶應義塾大), 岡本昌之 (トヨタ自動車), 金井秀明 (JAIST), 金子 聡 (日本IBM), 川口信隆 (日立製作所), 爰川知宏 (NTT), 小林 稔 (明治大), 齊藤典明 (東京通信大学), 塩澤秀和 (玉川大), 高田秀志 (立命館大), 角田啓介 (NTTコムウェア), 服部 哲 (駒澤大), 樋山淳雄 (東京学芸大), 三樹弘之 (沖コンサルティングソリューションズ), 三末和男 (筑波大), 宮田章裕 (日本大), 本橋洋介 (NEC), 由井蘭隆也 (JAIST), 湯澤秀人 (富士ゼロックス), 吉野 孝 (和歌山大)

¹ 和歌山大学システム工学部
Faculty of Systems Engineering, Wakayama University
^{a)} masao@wakayama-u.ac.jp